

ネパール東北部の森と耕地を守るためのしくみ

1. 地域の概況

ネパール東北部のソル・クンブ郡はサガルマータ県最北部に位置し、広い谷が集まった盆地状の高地に点在する村に約 11 万人(2001 年)が暮らしている。この地域の先住民、シェルパはエベレストに登山客相手の観光業（ガイドなど）やチベットとの取引の他に、農耕と移牧で生計を営んでいる。



図 ネパール東北部ソル・クンブ郡

2. 農業と移動放牧の複合システム

シェルパは、標高の高い「夏の放牧地(yersa)」と標高の比較的低い「冬の放牧地(gunsa)」とを移動する生活を行っている。通常、6月から9月のモンスーン期には気温が高く、降水量が多いため、5000メートル近い高地で家畜が放牧される。この時期、シェルパは村の周辺でジャガイモや麦などの自家用作物を生産する。畑の作物を家畜の食害から守るためこの時期、村への家畜の侵入は禁じられる。低標高地での農作物の収穫が終わり、気温が下がりはじめると、家畜の牧草が枯渇する高標高地域から、比較的雪の少ない低標高地域に家畜とともに順次降りてゆく。この間、中間地帯にある森林地帯の林床植生や木の葉を餌として利用する林間放牧が行われる。



ネパール、クンブ地域の集落と耕地

出典：<http://www.cs.unc.edu/%7Essinha/Nepal-2002.html>

3. 森と耕地を守るナワ(nawa)制度

比較的生産性の低い高地において限りある資源を有効に使うためには、放牧場所の時間的コントロールと森林利用の規制が必要であった。クンブ地域でそれを担ってきたのは、ナワ(nawa)と呼ばれる管理者である。ナワには家畜が村にいる期間を規制するナワと森を管理するナワがあった。特に後者は林間放牧の場として重要な森を守るために、建築用材などの伐採許可を出したり、村人が家においている木材の貯蔵量を監視したりするなどの役割を担っていた。こうした慣習的資源管理制度は、クンブ地方一帯が 1976 年にサガルマータ国立公園に指定されたことに伴い、変容・消失しつつある。

出典：古川彰．2004．村の生活環境史，政界思想社，京都，320pp．